

産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会  
プラスチック資源循環戦略ワーキンググループ、  
中央環境審議会循環型社会部会プラスチック資源循環小委員会 合同会議（第4回）

議事要旨

日時：令和2年7月21日（火曜日）15時00分～17時00分

場所：Web会議

出席者

委員

産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会プラスチック資源循環戦略ワーキンググループ

細田座長、石川委員、坂田委員、佐藤委員、湊元委員、長谷川委員、馬場委員、柳田委員

中央環境審議会循環型社会部会プラスチック資源循環小委員会

酒井委員長、青野委員、大熊委員、大塚委員、崎田委員、高村委員、宮澤委員、森口委員

主な議題

1. 今後のプラスチック資源循環施策の基本的方向性について
2. その他

委員等からの主な意見

■プラスチック資源の回収・リサイクルの拡大に向けた環境整備について

- 再生素材利用の拡大の促進について、再生素材の需要の拡大に向けては顧客や消費者に、再生素材を選択して購入、あるいは使用してもらうため、環境価値などの価値の見える化が重要。
- リサイクルの処理能力、そのキャパシティを国内で確保していくことが非常に重要。
- 容器包装だけではなく、容器包装以外の製品等も家庭から集めていくことは重要。また、家庭以外から排出される容器包装についても、大きな回収・リサイクルの余地があると考えている。
- プラスチック製容器包装・製品をまとめて回収・リサイクルすることの検討にあたっては、プラスチック資源の回収、選別、リサイクルまでの一連の流れの中で、現状よりも費用の効率化が可能かどうか、リサイクル素材の品質への影響等について、しっかりと精査して進めることが重要。

### ■プラスチック製品の環境配慮設計等について

- 新型コロナウイルスの影響で一時的にワンウェイプラスチックの使用が増えることはやむを得ない。今後は新しい生活様式に対応した安全かつリユーズ可能な製品や、容器包装の使用を推進する方向での制度設計が必要。
- ブランドを使うなどの嗜好の多様化や個食や中食などのライフスタイルの変化、ネット販売やケータリングなどの物流や店頭の変化などが食品や日用品には起きている。こうした視点を製品自体の品質基準や容器包装の仕様設計にも入れておくべき条件だと考えており、こうしたことを議論していきたい。

### ■事業者の自主的な取組の促進について

- 自主的な取組をベースにして、多様な主体間連携と自主的な取組を組み合わせ、かつこれを全体としてPDCAを回して進めていこうという方向性に賛成。
- 全体のPDCAが効率的に回ること。そしてそれが全体の目的を達成できるということを担保できるような仕組みをつくることが重要。
- 事業者による自主回収について、自治体によって法解釈が異なっていることがある。自治体と企業の連携が進むような環境整備を進めて検討してほしい。
- レジ袋有料化は容器包装リサイクル法の省令の改正で実施しており、法的な拘束力としてはそれほど強くはないとの印象だったが、事業者の負担にならずに効率的にワンウェイプラスチックの削減をすることができ効果を得られたよい例だと思う。
- プラスチックという素材は汚れたものもあり、難燃剤も含まれているなど、非常に複雑な形で社会に流通している。したがって、柔軟性があり当事者にとって一番よい方向で取り組めるような、ソフトな運用ができるような環境整備を進めるべき。
- 自主回収について、新しい市場やビジネスチャンスが生まれる効果が大きいいため、事業者の自主回収の推進に向けては、分別にかかる消費者のインセンティブとともに、事業者メリットというものも打ち出していきたい。

### ■今後のプラスチック資源循環施策の基本的方向性について

- 事業者がどのような方向で将来事業をしていくのか、あるいは投資していくのかを考える上で政府と共通認識を持つ必要があるため、基本的方向性の考え方について、日本としてプラスチック資源循環戦略で何を目指していくのかという目標とビジョンを、改めて明確に書いていただきたい。
- 「再生可能性」という点について、基本的方向性の中でしっかりと一定の制度的裏付けをもって、基本理念として考えていってもらいたい。エッセンシャルユース、衛生材料といった用途でのプラスチック素材の重要性について、使わざるを得ない用途は中長期的にはバイオ素材、脱炭素性のある素材に変えていくという方向は極めて重要。
- コロナの状況の下でも、リデュースの徹底ということがさらに重要性を増しているこ

とや、リユース、リサイクルを効率的・効果的に行うこと、再生素材、バイオ素材の利用を増やしていくことなど、冒頭の考え方に明確に記載してほしい。

- 海洋プラスチックごみ問題への対応として G20 大阪サミットで共有された大阪ブルー・オーシャン・ビジョンについて言及してほしい。
- 闇雲に回収量を増やすことではなく、しっかりと資源化できるプラスチックをいかに消費者に分かりやすく集めてくるかが非常に重要である。
- 再生素材の利用促進と記載しているが、全体的に需要側に着目した書きぶりとなっている。再生素材の利用促進においては、再生プラスチック材の供給量や品質、価格が適切な水準で供給される体制が整備されることが重要であるため、供給側についても記述してほしい。
- 消費者の理解と協力の促進について、再生品利用の促進に当たっては、消費者に対して分かりやすく正確に伝えること、人材育成という点について、明確に書き込むか強調してほしい。
- 消費者の理解・協力について、消費者だけに限らず、次世代を担う世代への環境教育も重要。
- E S G 投資の本質的なところは、企業価値の向上であり、国際競争力の下支えになるような効果も記載してほしい。

#### お問い合わせ先

産業技術環境局 資源循環経済課

電 話 : 03-3501-4978

F A X : 03-3501-9489